

## 企 画 提 案 書

◆ 市民合意形成の手法とプロセス（市民の共感を得た計画とするため、どのように市民意向を把握しようとするか。）

1 番 説 明 者

### 1. 市民合意形成手法の目標（市民参画による合意形成から協働の計画づくりへ）

- まちづくりにおいて、市民意向の反映や市民参加のあり方、アカウントビリティーの向上は、必須条件となっています。当社の経験に照らした有効な市民合意形成手法を提案します。
- 合意形成が第1目的ですが、市民との協働でより良い計画づくりを目指していくには、計画策定プロセスを通じて、都市運営に関する市民参加や協働の実質化へと向かうことがより重要であると思われる、そのモデルとなるような手法を提案します。

### 2. 市民合意形成手法の提案

#### 1) 市民アンケート（市民ニーズの正確な把握は、事業経営の基礎）

- 案作成の基礎資料と計画の周知徹底を兼ねて、市民アンケートを実施します。当地区の再生については全市民の協力とニーズ把握が重要と考えられることから、全市を対象に実施すべきと考えます。
- 票数は全市約2,000票でよいと考えられますが、配布については年代別ニーズの参考となるように、15歳以上で実施することを提案します。
- また、来訪者（観光客）等が多いことを考慮し、来訪者アンケート（街頭での聞き取り調査含む）を実施します。

#### 2) 市民ワークショップ（市民協働の計画づくりの核）

- 計画策定に当たっては、市民と協働して計画づくりを行う「ワークショップ」を核とします。但し、「ワークショップ」はやればよいというものではなく、しっかりとした目的・テーマを持った運営が必要です。
- 計画策定の段階を2つに分け、現状認識から夢を描く段階と事業計画案のプランニングの段階に区分します。第1段階では、タウンウォッチングと課題論議ワークショップとし、その後、事業手法等の見通しをつけた上で、第2段階の事業計画案を協働で作成します。
- ワークショップの終了後、毎回「ワークショップニュース」を作成・発行します。参加者の情報共有が狙いです。このニュースは、ホームページに転用します。
- 都市経営のあり方を主に検討し、細かい要望会とならないように配慮します。ワークショップは、将来の地区のまちづくりリーダーと組織育成もねらいとなります。

#### 3) 懇話会等（計画の実質化と組織の役割分担）

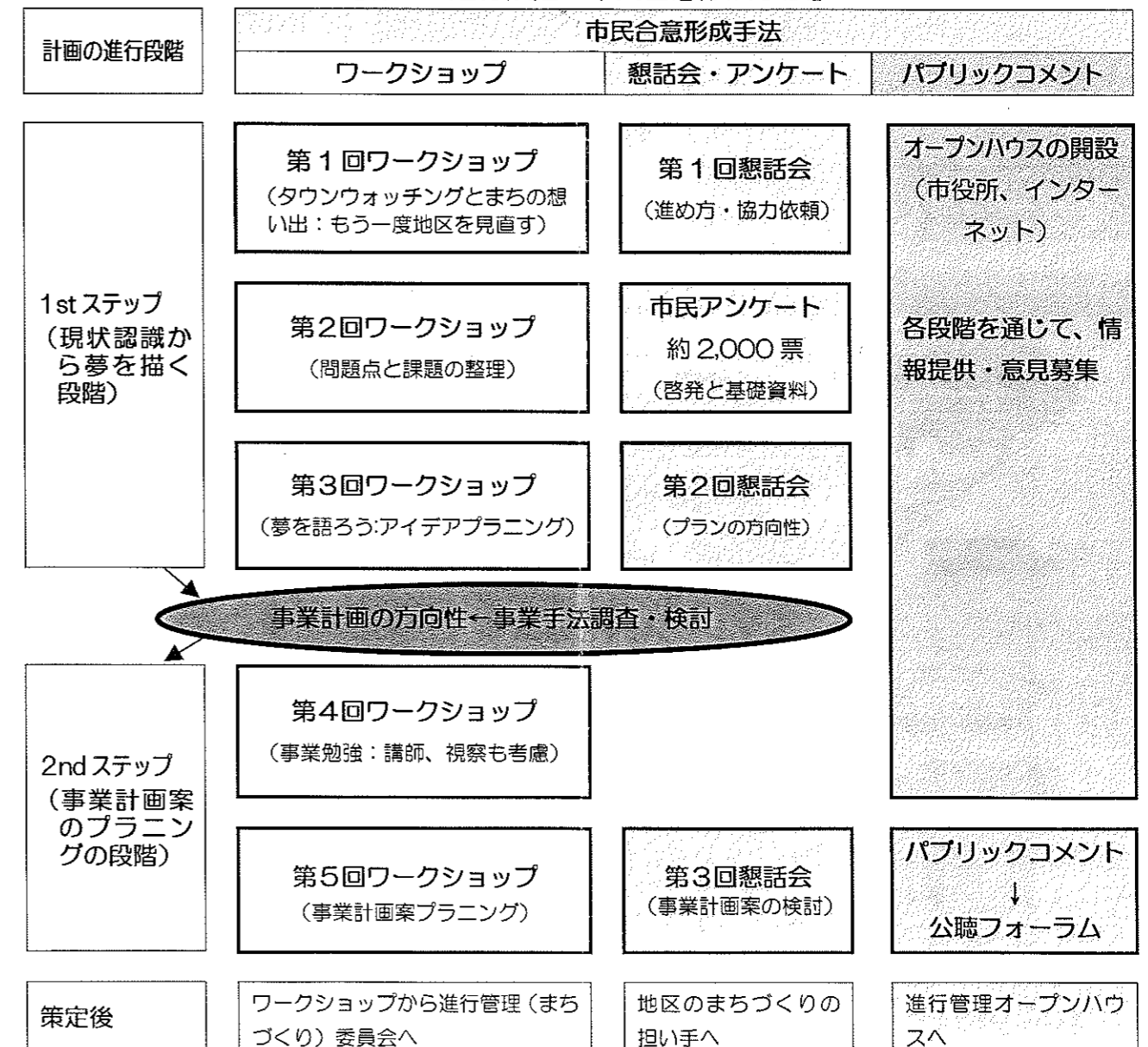
- 計画を実質化する上で、懇話会の役割は大きいと考えます。あくまで、計画の核はワークショップにおき、その計画内容を実質化する役割を期待します。
- したがって、懇話会メンバーもできるだけワークショップに参加していただくことを提案します。また、必要に応じて、関係団体とのヒアリングや懇談会を企画したいと考えています。

#### 4) オープンハウスとインターネットによる情報公開（パブリック・コメントの募集と情報の共有）

- 市民へ計画の意義や理解を求めめるために策定作業の概要を掲示し、市民への情報公開・広報を目的としたオープンハウスを設置します。

- これは市庁舎内のロビー等にコーナーとして設置すると同時にインターネット上にもオープンハウスを設置し、策定作業の概要を掲載したホームページを開設します。
  - ホームページには懇話会・ワークショップにおける検討の進行にあわせ、段階的に検討の内容と結果を掲載し、これらを通じて広く意見募集・聴取も行ないます。
- 5) 案に対する市民意見募集と公聴フォーラムの実施（全市民のまちづくり参画をめざして）
- 試案ができた段階で、広報誌に内容の概要を記載し、全市民を対象として意見を求めます。このときオープンハウスの活用もあわせ図ります。
  - これらの意見への回答を兼ねて、公聴会をフォーラムという形で行なうことを提案します。この機会を通じて、全市民にまちづくりへの参画を訴えることがねらいです。

【計画の進行段階と市民合意形成手法】



# 企画提案書

◆ 業務の進め方と着眼点（業務作業を進めるにあたり、何に主眼を置きどのように進めて行こうと考えるか。）

## 1. 箕面市への思い

- わが国は低経済成長下にあり、大都市と周辺都市が人口減少する中において、箕面市は全体として人口の微増を続けていますが、中心市街地は歴史の古い成熟した地域社会を形成しています。（成熟した地域社会）
- 箕面市は、明治の森箕面国定公園に代表される北摂山系から広がる里山・丘陵部に豊富な緑地環境をもつなど、自然の資産に恵まれたまちです。（大阪で数少ない自然豊かなまち）
- 人口は約 12 万 5 千人で、少子高齢化の進行が憂慮される中、市民の目が行き届く「コンパクト」なまちです。（コンパクトシティ）
- このように地域資源が豊かで成熟した市民の目が行き届く箕面市は、市民協働でまちづくりを進めるには最適の条件を備えていると考えています。

## 2. 業務の進め方と着眼点

### 1) 箕面駅周辺整備の課題（今までの検討で何が不足しているのか）

- 箕面駅周辺地区は、箕面の商業・文化・行政の中心地区であるとともに、箕面観光の玄関口でもあり、箕面市民の生活中心核です。
- いち早く再開発を手がけ、それも景観を重視した特徴ある整備を行ったという歴史を持っていますが、商業の郊外化の進行、基盤整備の老朽化等で時代にそぐわなくなっています。
- 近年、その再整備に対する検討が進められてきましたが、個々の施設検討が主であったことから、互いの連携による相乗効果の検討が不足していること、構想を具体的に実現する事業手法や進める母体が不確定であること、市民の計画へのコンセンサスが不足していることなど、まちづくりの実施にむかう展望が描けていないことがあげられます。

### 2) 目標とすべき計画（箕面の特性が生き、市民が豊かになるように）

- 箕面駅周辺整備方針の目標は、箕面市民のアイデンティティを形成すべく、「箕面の地域特性を活かした計画」、「地域の活性化に結びつく計画」、「市民負担が少なく持続可能な計画」とすべきであると考えます。

### 3) 業務の進め方と着眼点（実現可能な事業手法の選定と市民協働の計画づくりが鍵）

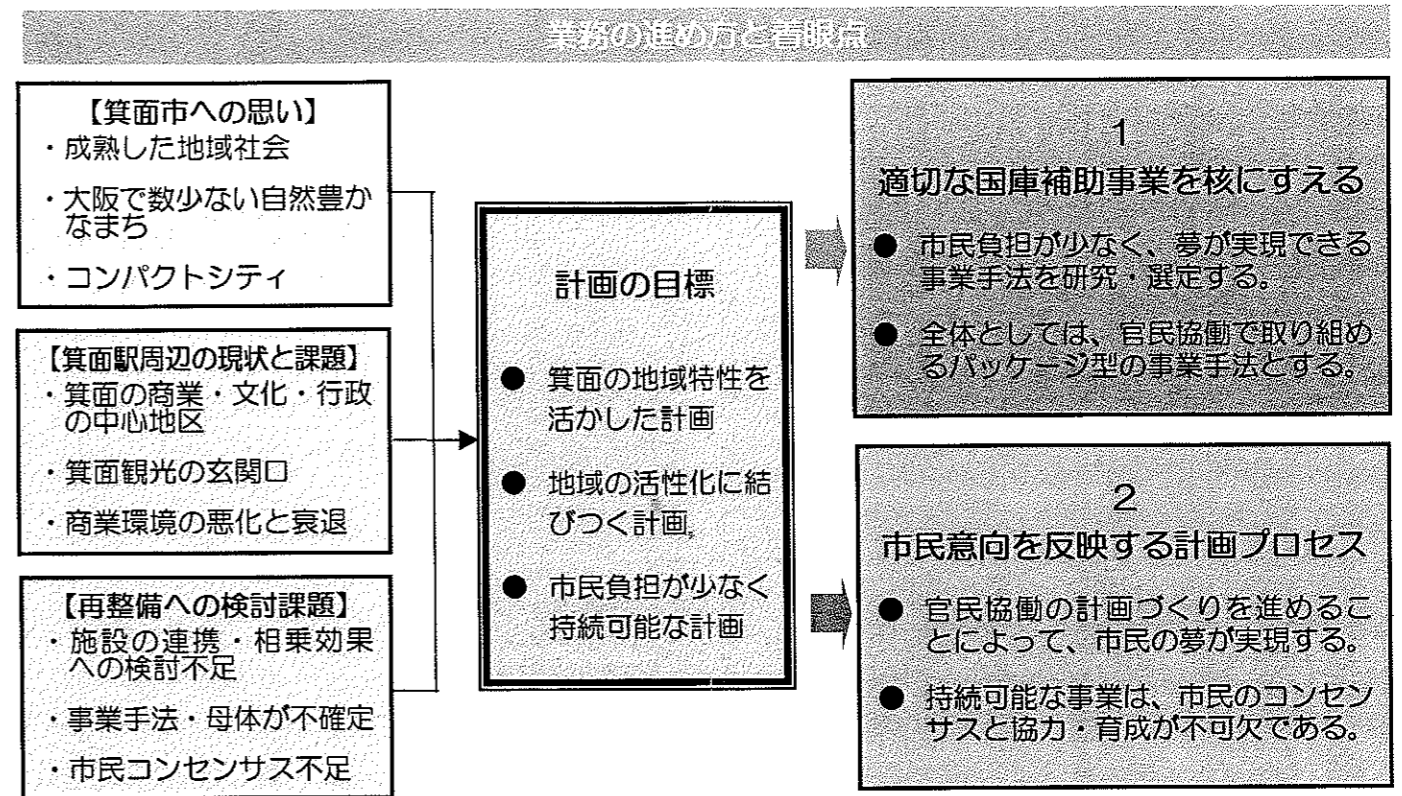
- 以上から次の2つを業務の進め方の骨子にすべきと考えます。

#### ① 個々の施設整備の相乗効果が発揮できる適切な国庫補助事業を核にする

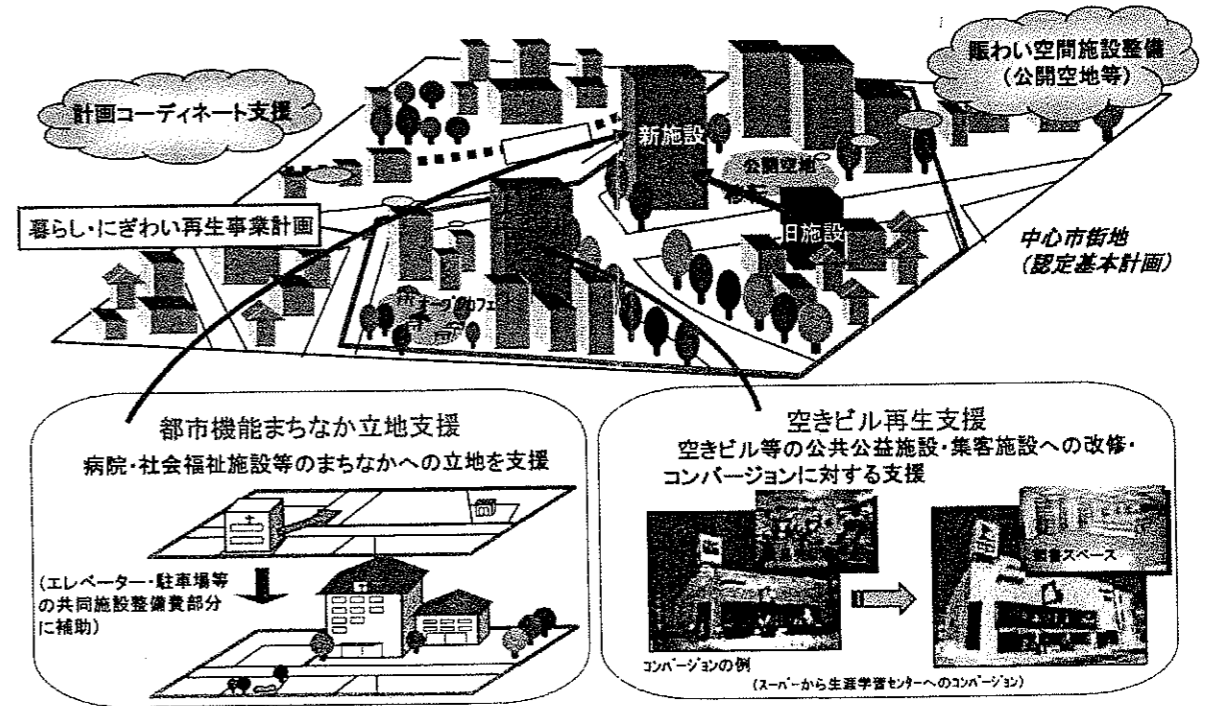
個々の施設整備が全体として相乗効果を発揮するように、官民協働で取り組めるパッケージ型の事業手法（暮らし・賑わい再生事業、街路事業、中心市街地活性化事業、民間誘導等）を検討すべきですが、その中で核となるべき国庫補助の事業手法を調査研究することによって選定し、市民負担が少なく、かつ、夢が実現できる事業の展望を開くことが重要です。

#### ② 市民意向を反映する計画プロセスをとる

官民協働の計画づくりを進めることによって、市民の夢が実現する道が開けると考えられます。持続可能な事業の実現は、利用する市民のコンセンサスと協力によって、事業経営を行う主体の育成が不可欠であることから、市民意向を反映し、協働の計画づくりを行うことを最重点として業務を進めます。



## 商用を検討すべき事業の例（暮らし・賑わい再生事業）



出典：国土交通省「暮らし・賑わい再生事業」のパンフレット

国土交通省では、中心市街地の再生を図るため、国による「中心市街地活性化基本計画」の認定を受けた意欲のある地区について、都市機能の街なか立地及び空きビルの再生並びにこれらに関連する賑わい空間施設整備や計画策定・コーディネートに要する費用について総合的に支援する制度を18年度より創設しました。この事業採択の検討が必要と思われます。